

平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 31 年 4 月 25 日

代表者 安達 一寿

研究課題名	コンピテンシー育成を目指した教育方法、及び評価方法の研究
研究期間	平成 30 年 6 月 21 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
共同研究者	関根郁夫、石川敬史、星野祐子、大山博幸
1. 今年度の研究概要	
<p>大学生のコンピテンシー育成を目指したカリキュラムの提案と学修モデルの開発をおこなう。</p> <p>○カリキュラムの提案 学生が身につけたリテラシーやコンピテンシーをこれまでの試験結果を元に分析する。そして、学生の能力育成の観点から、女子教育としてのカリキュラムの提案を行う。</p> <p>○学生のコンピテンシー修得 評価指標の設定と多面的な評価が実施できるように、ルーブリック等を開発しその活用方法を提案する。同時に、eポートフォリオを活用して、これらの学修資源に関する情報を統合し、最終的には学修成果情報として、様々な学習過程や評価の状況が可視化できるシステムの提案を行う。</p> <p>○アンケート分析方法の構築 今後、授業でのアンケート等を大量に分析する必要性を見通して、簡便かつ効率的にアンケート分析が可能となる方法を構築する。</p>	
2. 研究の成果	
<p>○カリキュラムの提案 2020 年度から予定されている新カリキュラムの共通教育領域の内、ゼミナール関連科目領域の体系化とシラバスの開発を行った。</p> <p>○学生のコンピテンシー修得 過去数年間のデータを分析し、学生のコンピテンシーなどの修得状況を明らかにし、能力育成に対する対応策を提案した。</p> <p>○アンケート分析方法の構築 全学生に実施するアンケートで、自由に設計できるマークシート形式と集計ソフトを活用したデータ処理を行い、簡便性や効率性が実証できた。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

○カリキュラム提案－科目概要の例

・課題解決ゼミナール

グループに分かれ、地域や社会を対象として PBL や SL の形態で、主体的な学習活動を経験することを目的とする。地域や社会での教育・産業・健康・食・安全・福祉・多文化共生等に関する課題・テーマを抽出・設定し、実際にその地域で活動するもしくは地域の活動等に参加する。活動・参加経験もしくは調査で得たフィールドデータの結果をもとに振り返り、当該課題・テーマに関する知見を獲得する。

○学生のコンピテンシー修得

分析の結果、学生の特徴として、リテラシー・コンピテンシーとも様々なレベルの学生の存在が明らかになった。また、伸長に関わる要因として、大学での目標の明確度やキャリア・地域活動への関心度に関係があることが明らかになった。

- ・学生のジェネリックスキル伸長状況の分析, 十文字学園女子大学 地域志向教育研究プロジェクト 研究成果論文集 2014～2018,165-172
にて研究成果の一部を公表

○アンケート分析方法の構築

アンケート内容は、本学学生の地域活動に関する実態や身についた能力等で、その結果を集計した。社会活動への参加経験や社会活動を通じた能力の伸長度合い、参加意思などの傾向が明らかになった。

- ・地域活動に関する学生アンケートの集計, 十文字学園女子大学 地域志向教育研究プロジェクト 研究成果論文集 2014～2018,175-182
にて研究成果の一部を公表